

拠点施設」としての二ツ沼総合公園のもつ優位性を最大限に活かした国際公認パークゴルフ場やリフレッシュ施設、装いも新たになった児童・幼児公園、パークギャラリー、ゲートボール場一面を確保出来るスペースと夜間利用も可能となる「ふれあいドーム」も完成し、週末における町内外からの老若男女を初め家族連れの集客が一層期待でき、町の交流人口は大きく増加するものと予測されます。このような状況のもと、平成十八年度から指定管理者となるべき事業所に対し交流人口の増加を活かし町勢振興のための新たな事業展開を要請して参ります。



ふれあいドーム

更には、町民の健康増進と三世代交流の場となっております、二ツ沼パークゴルフ場が国際公認を得てこの四月で満一年を迎え、本年九月上旬第十一回東北パークゴルフ大会が当施設を会場として開催されることとなり、町民のみならず県内外から多くの参加者並びに見学者が予想されることから、町商工会、旅館業組合、観光協会等々との連携を図り、二コースポーツによる広野町のPRと誘客につとめ地域活性化を進めて参ります。



広野町サッカー場

第四は「教育関連事業」であります。

近年の少子化に加え、情報化・国際化の進展など、児童・生徒を取り巻く環境が大きく変化しています。こうした社会構造の変化に対応し得る児童・生徒を育成するための国際理解に関する教育については、国際諸情勢を勘案し暫く中断しておりました中学生海外交流事業の実施再開に向けた情報収集をして参ります。

次に、小学校において知的、肢体、情緒障害等で特別な支援を要する特殊学級分野の充実を進めて参る経費の計上を致しました。また、小中学校図書整備も継続し、子供たちに優しい教育環境を創ってまいります。

学級編成にあたっては、引き続き福島県独自の方針に基づき、一学級三十三人を上限とする「少人数学級」を小、中学校全学年において堅持し、児童、生徒の学力向上に努めて参ります。

教育施設整備といたしまして、昭和六十二年度に広野小学校が築地ヶ丘より現在の地中央台に移転新築され、既に十九年を経過しており、外壁及び屋根塗装の劣化の進行、階段部採光用ガラスに破損が生じていることから、これらの補修工事と併せて、移転当時はまだコンピュータ学

習は想定外であったことにより、専用の教室を有することなく現在に至っております。今後益々コンピュータ教育が重視されて参ることから、専用の教室を築造することとしました。

次に、広野町奨学資金貸与事業も多数の学生に利用され、既貸与者四十四件であります。今後も利活用のPRに努め実施して参ります。

学習の場としての広野町図書室を目指し、四月より開館時間を毎日午後六時十五分までとする延長を図り、町民の利用しやすい図書室づくりとサービスク拡充に努めて参ります。

第五は「人材育成プログラム支援事業」であります。

Jヴィレッジを拠点にした日本サッカーのレベルアップと社会をリードしていく人材の育成を目指した「エリートプログラム」中高一貫教育が本格始動いたします。

この事業の実施にあたっては、ハード面は昨年度のピッチ整備に引き続き今年度は男子寮並びにクラブハウスの建築、屋内サッカーグラウンド敷地造成となっており、ソフト面については、日本サッカー協会の全面的なバックアップが決定されておりあります。

更に、四月には全国各地から選抜された十七名の生徒が広野中学校一

学年へ入学することから、遠く親元を離れたこれら生徒たちの第二の家族としての身心とものサポートファミリー体制創りが急務となっていることから、この支援体制創りを全面的に推し進めて参りますので、町民の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

第六は「行財政改革」であります。

本年度は、平成十七年に総務省から示された「地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針」に基づいて事務事業の再編・整理、廃止・統合、経費節減等の財政効果、職員全般にわたる定員管理、給与の適正化等、行政運営の見直しを積極的に推進し、分権型社会に対応するための「集中改革プラン」を策定し、実現に取り組んで参ります。

**平成十八年度
広野町一般会計予算案**

平成十八年度の予算編成に当たりましては、本町を取り巻く財政状況が依然として厳しいことを認識し、限られた財源を最大限有効に活用するとの観点から、経費の一層の節減合理化と引き続き行政各般に亘る見直しを行うこととし、また、各種施策の優先順位につきましては、費用対効果を勘案した厳しい選択を行う

とともに、社会経済情勢の変化を踏まえ、今後の目標を第三次広野町町勢振興計画の施策大綱に置き、福祉・環境・教育を中心に安全・安心の確保にも配慮し「自然とともに新しい文化をつくるまちひろの」の実現に向け編成したところであります。

一般会計は、総額四十六億一千八百六十七万六千円の予算規模で、対前年度比〇・六パーセントの減となるものであります。

先ず歳入面では、当町の主要財源であります東京電力広野火力発電所に係る固定資産税の減の影響により、町税収入が前年度より大きく減収することから可能な限り歳入の確保を図るとともに、財政調整基金からの繰り入れを見込むなど財源確保をいたしております。

一方、歳出面では、引き続き徹底した経費の見直しと節減、特別職人件費の削減を図ると共に、サッカー国際人育成プログラム支援事業をはじめ、町道整備事業、農林振興事業、小学校校舎改修事業、児童福祉事業などに限られた財源の重点的、優先的な配分に努めました。

各特別会計の予算案

「国民健康保険特別会計予算案」は、国民健康の健全化、効率的な運

営に努めるとともに、医療費の適正化及び町民の健康維持対策などに努めて参ります。

「土地開発事業特別会計予算案」については、岩作土地開発事業の借入金金の償還を行うほか、広野工業団地及び広洋台住宅団地等の環境緑化保全対策などに努めて参ります。

「老人保健特別会計予算案」については、長寿社会に即した老人医療の確立に努めて参ります。

「公共下水道事業特別会計予算案」については、施設の適正な維持管理とともに、より一層の生活環境の改善を図るため、下水道普及率の向上に努めて参ります。

「農業集落排水事業特別会計予算案」については、施設の維持管理を主体とした予算編成をいたしました。

「介護保険特別会計予算案」については、制度の主旨を踏まえ、介護保険の円滑な事業の運営を図るための予算編成をいたしております。

平成十八年度の一般会計及び六特別会計を合わせた予算総額は六十三億一千五百四十四万二千円で、対前年

度比〇・四パーセントの減となる予算規模であります。

以上、平成十八年度広野町の主要な施政の基本、施政の概要及び財政運営についてご説明申し上げます。

総務課総務グループ関連

一月十七日、平成十八年広野町自治功労表彰式を挙行いたしましたし、特別功労章、功労章それぞれ二名の方々を表彰致しますとともに、長年、それぞれの分野で御活躍された方々十名に対し永年勤続表彰を行い、併せて一名の一般表彰を行いました。

更に同日に行いました新春交歓会には、町内から百六十五名の方々の参加を得て、盛会裡に終了致しました。

総務課企画グループ関連

平成十五年度から相双地域観光拠点整備事業により整備を進めて参りましたが、二ツ沼総合公園整備事業は、計画通り二月末をもって事業が終了し、公園内に完成した各施設の来月オープンに向けて維持管理に努めております。また、今年四月一日よりスタートする「サッカーによる国際人育成支援事業」についてのハード